

京都府

定 数： 7 名

立候補者数： 7 名



氏名 荻谷 康之

都道府県士会 京都府

年齢 58

勤務先名称 西陣病院



氏名 堀江 淳

都道府県士会 京都府

年齢 55

勤務先名称 京都橘大学

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

協会士会役員歴

平成2年～7年度	京都府理学療法士会 財務部 部長
平成8年度～平成27年度	京都府理学療法士会 財務部 理事(財務担当)
平成28～29年度	京都府理学療法士会 副事務局長 兼 財務担当理事
平成30年度～現在	京都府理学療法士会 副会長 兼 事務局長
平成23年度～現在	日本理学療法士協会 代議員

立候補の趣旨

京都府理学療法士会の事務局長として6年間、士会事業に関わらせていただき、年々日本理学療法士協会と各士会での連携強化の必要性を感じるようになっております。未曾有の高齢化に伴い超高齢社会を支えるため少子高齢化が進む日本では就業年齢の引き上げが必須の状況です。そのため健康でより長く働ける身体作りが今後さらに必要となり健康寿命の延伸が重要となります。今後は現在以上に障害分野のみでなく、予防・介護領域での理学療法士の必要性がますます高くなっていくものと思われまます。そのため協会で行われている国・行政との連携から生まれる最新情報を士会内でも共有し理学療法士の職域拡大を含めた地域での活躍の場の拡充が重要になると思います。

新生涯学習システムの変更から2年が経過し、登録理学療法士や認定・専門理学療法士の更新期限があと3年となっております。登録理学療法士は臨床業務にあたり広い知見を持ち、多様な障害や疾患に対応できるゼネラリスト育成のために設定された制度ではありませんが、十分な認知がまだ得られていないように感じています。士会内での状況を協会に伝え、広報・周知の方法を検討していただく事も代議員としての務めと考えております。

士会の事務局長として士会員の意見を協会に届けられるよう、また協会の動きや意向を士会の事業や広報を通じて士会員の皆さんへ伝えられるように、次期においても代議員に立候補させて頂きました。よろしくお願いいたします。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

協会士会役員歴

日本理学療法士協会 代議員
日本呼吸理学療法学会 理事、総務委員会委員長、機関誌調整委員会副委員長
日本理学療法士学会 ガイドライン部会 部員
日本理学療法士学会 ガイドライン・用語策定委員会呼吸作成班 班員
日本理学療法士学会 研究推進委員会 協力員(呼吸)
日本理学療法士学会 倫理審査部会 審査員(呼吸)
京都府理学療法士会 理事、副会長

立候補の趣旨

私は、理学療法士協会代議員立候補の意志を固め、この度、代議員に立候補させていただくことにいたしました。私のこれまでの経験、専門知識、そして情熱を活かし、理学療法士としての職能を向上させ、直面する課題に積極的に取り組む所存です。

私の理学療法士としての経験は、17年間、臨床経験を重ね、呼吸器疾患の患者様を中心に診療に携わらせていただきました。その中で、理学療法の実践における多くの課題を肌で感じました。これらの経験を基に、後半の17年間は、呼吸理学療法という専門性を活かし、理学療法士教育に携わらせていただいております。また、その間、日本理学療法士協会、日本呼吸理学療法学会、京都府理学療法士会の仕事もさせていただきました。特に、士会では学術活動に関する仕事をさせていただきました。この2年間は、新しい生涯学習制度、登録理学療法士制度など、次世代の理学療法士の育成に関わる仕事をさせていただきましたが、まだまだ残された問題が山積しております。

私は、これまでの理学療法士としての経験と専門性を活かし、引き続き、京都府理学療法士会の会員の一人として、士会員のため、そして最終的には私たちが治療する患者様のために、最善を尽くす覚悟です。皆様の支持を賜り、共に理学療法士の未来を切り拓いていく機会を得られればと思います。ご支援のほどよろしくお願いいたします。



氏名 田村 篤

都道府県士会 京都府

年齢 45

勤務先名称 洛西シミズ病院



氏名 江平 知子

都道府県士会 京都府

年齢 57

勤務先名称 肢体不自由児・重症心身障害児
施設聖ヨゼフ医療福祉センター

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

士会役員歴
2020年～現在 京都府理学療法士会 保険部担当理事

立候補の趣旨

京都府理学療法士会の保険部担当理事として約4年間士会の仕事をさせていただき、また、京都府の臨床実習指導者講習会協議会など様々な担当をさせていただき、士会内での事業において協会との連携の重要性を強く感じております。この4年間は新型コロナに振り回された大変な期間となりましたが、オンライン会議の利用等で地理的な距離は離れていても協会と士会とのつながりはより一層強くなっていると感じております。

昨年度には新生涯学習システムがスタートしたことや、新たな取り組み、今後ブラッシュアップされていく事項について協会と士会で情報を共有し、また、現場の声を協会に上げていく役割は今後、非常に重要になっていくと考えております。会員数の減少についても、少なからず協会と士会の相互理解や相互協力が影響しているとも考えられるので、士会員の皆さんに分かりやすく伝え、また士会員からの疑問や意見を協会に伝える事が出来るように、努力していきたいと考えております。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

2016年～ 京都府理学療法士会 理事 業務推進部担当
2018年～現在 京都府理学療法士会 理事 社会局 局長
2018年～ 日本理学療法士協会 代議員

私は、京都府理学療法士会の理事として、京都の理学療法士間のつながりを作り、職能活動を支援することに努めてまいりました。

京都の活動を支えていくためには、他の士会の状況を知ること、日本理学療法士協会の事業の展開を知ることにはとても大切なことでもあります。代議員として協会の方々の話を聞く機会、総会に出席して事業の展開を知る機会を持つことを士会事業の遂行のためにも続けていきたいと考えております。

現在、組織率の低下が問題とされています。会員の皆様に、協会・士会の役割や運営についてわかり易く、身近に感じていただけるような努力をさせて頂きたいと思っております。よろしく申し上げます。



氏名 安彦 鉄平

都道府県士会 京都府

年齢 45

勤務先名称 京都橘大学



氏名 麻田 博之

都道府県士会 京都府

年齢 58

勤務先名称 蘇生会総合病院

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

【協会士会活動歴】

2016-2017 第28回京都府理学療法士学会 総務局長
 2017-2021 日本理学療法士協会 ガイドライン作成委員会
 背部障害システムティックレビュー班 班長
 2019-2020 第9回日本運動器理学療法学会 総務局・広報担当
 2020-現在 京都府理学療法士会 広報部 担当理事
 2021-2022 第32回京都府理学療法学会 準備委員長
 2022-現在 日本運動器理学療法学会 査読委員
 2022-現在 日本筋骨格系徒手理学療法研究会 評議員

【立候補の趣旨】

私は、京都府理学療法士会の広報部理事としての約4年の経験を踏まえ、代議員への立候補を決意しました。この立場から、協会との連携を深め、理学療法士の専門性と社会への貢献をより広範に伝えることで、理学療法士の社会的価値の一層の向上を目指します。また、士会員へ透明性の高い情報共有を行いつつ、士会員の声を協会へ効果的に届け、双方向のコミュニケーションの強化を推進します。

理学療法士の価値向上には、協会と士会の情報共有強化が不可欠です。協会から得た価値ある情報を、士会での広報戦略に活用し、マスメディアやソーシャルメディアを活用した情報発信を強化していくことで、理学療法士の価値と役割を広く伝えることができると考えます。具体的には、協会との情報共有に基づく府民の健康と福祉の向上を目指したイベントの開催、各種メディアとの連携強化などに取り組みたいです。

代議員は、協会と士会員との間の重要な橋渡し役です。主に、会員の意見やニーズを正確に協会へ伝えると同時に、協会の方針を会員に明確に伝達することにあります。このコミュニケーションの枢軸としての役割を果たすことで、協会と士会員との理解を深め、共通の目標を追求する体制の構築を目指します。代議員として、これらの目標の達成に向けて尽力します。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

協会・府士会役員歴

2000年～2017年 京都府理学療法士会 理事
 2016年～現在 日本理学療法士協会 代議員
 2018年～現在 京都府理学療法士会 会長

立候補趣旨

私は京都府理学療法士会で理事として学術局を中心に18年間活動を行い、2018年からは3期6年間を会長として京都府士会員の益となよう様々な取り組みを行ってまいりました。日本理学療法士会の代議員は、会員の声や京都府理学療法士会が抱えている様々な課題を直接伝える役割であると思っています。代議員責務は協会の理事選挙投票と、総会議決です。また、総会では直接意見を述べる事ができます。京都府は7つの議席権利をもっており、その一つの価値を最大限に生かしていく所存です。現在抱えている課題として協会事業と府士会事業の意思疎通と事業すみ分け、生涯学習制度の熟成、会員の地位向上と給与体系改善、会員組織率維持等、多く問題を早期に検討し解決の道筋をつける必要性を強く感じており、実現に向けて努力してまいります。

最後になりますが2016年からの代議員としての経験を、次の世代の10年に繋げることも今後の大きな役割と思っています。繋ぎながら日本理学療法士協会と京都府の橋渡しとして頑張ってまいりますので、よろしくお願い致します。



氏名 田後 裕之

都道府県士会 京都府

年齢 54

勤務先名称 京都岡本記念病院

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

平成22年～平成25年度 (社) 京都府理学療法士会 公益事業部 部員
平成26年～平成29年度 同 社会局保険部 部長
平成30年～令和元年度 同 社会局副局長及び保険部、災害対策部理事
令和2年～令和5年度 同 地域局長及び災害対策部理事、(公社) 日理協 代議員
平成26年度 第25回 京都府理学療法士学会 準備委員長
平成28・29年度 (公社) 日理協 職能課生活期ワーキンググループ協力委員
令和元年度 第59回 近畿理学療法学会 運営局長

2024年元日に発災した能登半島地震における犠牲者の方々、被災者の方々に謹んでお悔やみとお見舞いを申し上げます。自身も京都JRATとして少しでも生活不活発、災害関連死を防ぎ、今後の復旧・復興のお役に立てるよう関わっていきます。

2024年は6年に一度の診療(医療)、介護、障害福祉のトリプル報酬改定の年です。報酬改定は今後の国の方向性を反映しており、我々の職務遂行において無視できません。「機能分化」「連携」の推進と「データ」「結果」の可視化が盛り込まれており、医療の領域では急性期・早期リハ、重傷者リハの充実、栄養・口腔管理との連携と併せて、地域包括ケアの推進が挙げられています。少子・高齢化、複数課題を抱える地域社会から「理学療法士は絶対必要!」と認めていただくためには、個々への直接支援だけでなく、予防や健康増進にむけた集団への直接的・間接的支援、更には問題が生じにくい環境への働きかけ(総合的地域力強化への関与)が必須で、理学療法士として多様性を配慮したあらゆる状況、環境、要請、変化への柔軟な対応能力と連携・調整能力を持った実践力の提供が求められます。そこでは医療と生活支援のプロフェッショナルとして質の高い技術により結果を出すことが大前提です。

京都府理学療法士会が職能団体として、横の繋がりを構築しつつ専門職としての資質向上と地域住民・社会における公益性を担っているよう微力ながら一端に加わりたく立候補をいたしました。どうぞよろしく願います。